

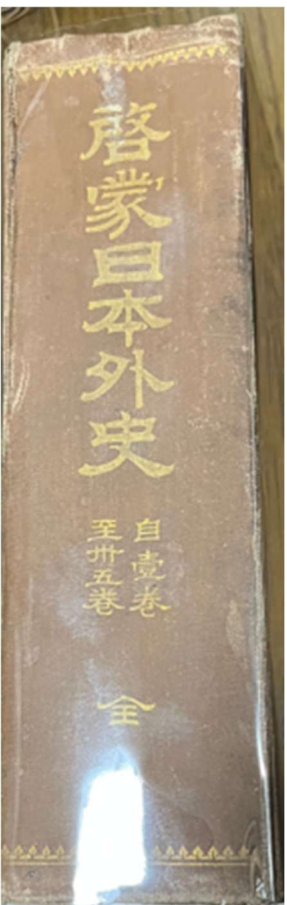
## 古書のたのしみ（令和七年三月）

土屋 博

一「啓蒙日本外史 自壹卷至卅五卷 全」東陽大槻誠之解、益軒渡邊約郎校

（發行者目黒甚七、印刷者矢野松之助、明治二十六年二版）

古書價格三百圓也。初版は明治二十年。東陽大槻誠之（一八二二年生れ、一九〇三年歿）は、相模國出身の儒者。かの大槻磬溪先生（仙台藩儒者。一八〇一年生れ、一八七八年歿。大槻文彦の父。）、本書に叙を寄せり。曰く、東陽は自分の胤族には非ざれど同姓のよしみよりと。明治七年盤溪七十四歳。讀者の中には、盤溪自身の著書かと誤解せし者、多かりしならむ。



二「習字兼用 三體手紙之文 完」大町桂月著、玉木愛石書

（東京精華堂藏版、大正二年訂正三版、定價金四十五錢、七六丁）

古書價格五百圓也。初版は明治四十五年。三體とは、楷書、行書、叢書なり。年賀状の例、以下の如し。「改曆の嘉祥萬里同慶目出度申納候 先以て御尊家御一同様御安寧御超歳被爲遊奉大賀候 降而弊屋一同無異馬齡を加へ候間乍憚御省慮被下度候」と。

三「頼山陽大観」坂本箕山著

（山陽遺蹟研究會藏版、大正五年刊、定價金參圓五拾錢、一一七八頁）

古書價格五百圓也。大隈重信、序文にて曰く、「余は青年時代に於て、頼山陽が遺著を読むに及び、膝を叩いて快哉を叫び男子須らく山陽の書を読まざるべからずと称へたりき。その後頼山陽の通議其他の遺著を見るに及び愈々益々其の卓識なるに敬服せり。彼は只だ一の儒生にあらずして、學問の要は経世實用に在りと称へ、其の人を誨ゆるに活世界に活動たらしむを以てしたりき」と。



四「類句作例 書翰大辭典」濱野知三郎增訂

（文交堂書店、大正九年十四版、定價金貳圓、本体一一六二頁＋附録（書翰文字のくづし方）一〇二頁）

古書價格三百圓也。初版は大正六年刊。年賀状の例より、「履端の祥慶萬象維新芽出度申納候」、「改曆の御慶、千鶴萬龜目出度申納候」、「乾坤一新風物頓に改り候」、「斗柄一転、年茲に改り、萬物祥を呈し、鳳棲益々御清福に越年遊ばされ候段欣賀不斜候」、新玉の年の始の御壽、目出度祝ひ納め候」。

五「増補 東洋史教授資料」文學博士桑原隲藏述

（東京開成館藏版、大正十二年増補再版、教師用非賣品、本文四九二頁）

古書價格二百圓也。初版は大正三年刊。東洋史の基礎的知識を得るに最適の書。餘りの名著故に、二度目の購入なれど、前のものは表紙部分缺失落せり。また、桑原隲藏全集第四巻も同一内容を含むことは、かつて紹介したる処なり。

2

六「新字鑑 學生版」文學博士潮谷溫編

（東京弘道館、昭和二十九年増補二十一版、定價六百圓、本体千頁＋附録一五三頁）

古書價格三千圓也。初版は昭和十九年。

鹽谷溫（一八七八年生れ、一九六二年歿、元東京帝大教授）は、塩谷宕陰以来の漢學者の家系。一九三舊年に刊行せられたる「新字鑑」は國策を背負ひたる漢和辞典として、當時のベストセラーなりき。發賣二年間にて百參拾五版を記録。本書はその學徒版。本書の自序に曰く、「明治時代の重野三島服部三博士の漢和大辞典、大正の上田岡田博士等の大字典より昭和の大字典まで、三代に亙る大小幾多の字書を比較すれば、最近に於ける日本文化の發展、漢和字典の沿革を知ることが出来る。新しいもの程改良進歩の著しいものがあるのは當然である。」と。

七「頼山陽 日本政記」安藤英男譯

（白川書院、一九七六年刊、定價千七百圓、三七六頁）

古書價格三百圓也。本書刊行後の一九八二年に、安藤氏は近藤出版社より増補校訂版四〇八頁を出して居る。原文紹介ページ大幅に増えたれば、そちらを決定版とすべし。

八「漢詩譯百人一首 附詠史六十六絶句」小此木郁三著

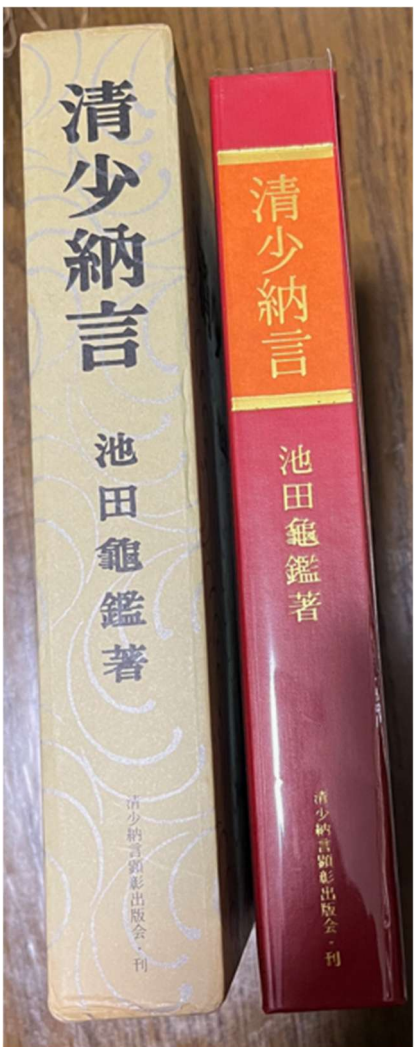
（晚印書館、昭和五十四年刊、非賣品、二七五頁）

古書價格五百圓也。著者は新潟県警OB、元新潟県警察學校長。高田眞治に師事し漢詩を學ぶ。たとへば、七番安倍仲麻呂については、「天涯萬里異朝に臣たり 郷夢綿綿たり觀國の寶 三笠山頭一痕の月 依稀として思ひを賦詩に託すること頻りなり」と。

九「復刻版 清少納言」池田龜鑑著

（清少納言顕彰會、昭和六十二年復刻、定價二万五千圓、本文三四六頁）

古書價格三百圓也。函入。『幻の名著』の限定復刻千部のうちの第三三九冊目。原著は、昭和二十九年同和春秋社刊。池田龜鑑は、一八九六年生れ、一九五六年歿。東京高等師範卒業後女子學習院助教授となるも、東京帝大に入り直し、昭和九年助教授、昭和参拾年五十八歳にて漸く教授となるも、翌年逝去す。枕草子の「ごく短き段」として、「ただ過ぎに過ぐるもの 帆かけたる舟。人のよはひ。春夏秋冬。」を紹介す。



十「漢詩の稽古」石川忠久著

（大修館、二〇一五年刊、定價本体千八百圓＋税、二四二頁）

古書價格五百圓也。石川忠久（一九三二年生れ、二〇二二年歿。東大文學部中國文學科卒。

二松學舎大學理事長、學長を歴任。漢詩實作指導の第一人者による門人指導を紙上に再現す。

十一「一億三千万人のための論語教室」高橋源一郎著

（河出新書、二〇一九年刊、定價本体千二百圓＋税、五三三頁）

古書價格五百圓也。著者の高橋源一郎（一九五一年生れ）は、調ぶるに小生の麻布中學の三年後輩たりし人物なること判明す。彼はその後関西に引越し、灘中學に編入し、灘高校を卒業したる由。東大入試無き年に横浜國立大學に入學するも、學生運動のため逮捕せらる。その後、作家の道に進み、明治學院大名譽教授となる。本書は著者の二十年來に互り書き留めて來たるライフワークともいふべきものなり。作家としての才能を遺憾なく發揮したる極めてくだけたる口語譯は、新鮮にして他の追隨を許さぬ域に達したり。

為政篇「君子は器ならず」は、「あなたたちは、なにも考へず人に使はれてるだけの道具じゃないんです。人間なんですから、自分の頭で考へてなにこともする様にしてください」と。

（令和七年四月二十四日受附）